

件 名

令和 7 年度体罰等の実態把握の結果について

提出理由

体罰等の実態把握のため、令和 7 年度中の体罰等の発生状況（体罰等の有無、態様等）について調査したので、その結果を別紙のとおり報告します。

概 要

1 調査の趣旨

児童生徒に対する体罰等の実態を把握し、体罰等禁止の徹底を図り、信頼関係に立つ教育の推進に資する。

2 調査内容

令和 7 年度中の体罰等発生状況（体罰等の有無、態様等）

3 調査対象期間

令和 7 年 4 月 1 日～令和 8 年 3 月 3 1 日

4 調査対象

県内全公立小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・特別支援学校（さいたま市立学校を除く。）

（市町村立） 小学校 6 7 3 校、中学校 3 4 7 校、義務教育学校 4 校、
高等学校 2 校、特別支援学校 2 校

（県立） 中学校 1 校、高等学校 1 3 7 校、特別支援学校 3 8 校

5 調査方法

各校で児童生徒、保護者、教職員へアンケート調査の上、聴き取り等を実施

6 調査結果の概要

(1) 発生件数 計 1 2 件

小学校 6 件、中学校 4 件、高等学校 2 件、特別支援学校 0 件

（小学校は義務教育学校の前期課程を、中学校は義務教育学校の後期課程を含む。以下同じ。）

(2) 主な場面

休み時間 5 件、授業中 2 件、清掃時 2 件、放課後 1 件、給食時 1 件、部活動 1 件

(3) 主な態様

胸ぐらをつかむ 4 件、素手でたたく 2 件、暴言・威嚇 2 件、蹴る 1 件、身体を強く押す 1 件、その他 2 件

(4) 主な被害

打撲 2 件、精神的苦痛 2 件、外傷 1 件、負傷なし 7 件

7 県教育委員会等の対応

減給 1 件、戒告 1 件、訓告等 6 件 計 8 件

表 1 令和 7 年度に発生した体罰等

概 要	小	中	高	特	計
発生件数	6 (4)	4 (4)	2 (10)	0 (1)	12 (19)
発生学校数	3 (4)	4 (4)	2 (9)	0 (1)	9 (18)
体罰等を行った職員数	3 (4)	4 (4)	2 (9)	0 (1)	9 (18)
被害児童生徒数	6 (4)	4 (8)	2 (18)	0 (1)	12 (31)

() 内は令和 6 年度

表 2 主な場面

	小	中	高	特	計
授業中	1	1			2
放課後		1			1
休み時間	4	1			5
給食時	1				1
清掃時		1	1		2
部活動			1		1
ホームルーム					0
学校行事					0
その他					0
計	6	4	2	0	12

表 3 主な場所

	小	中	高	特	計
教室	6	2			8
特別教室					0
職員室					0
運動場・体育館		2	1		3
生徒指導室・ 相談室					0
廊下・階段			1		1
実習室					0
その他					0
計	6	4	2	0	12

表4 主な態様

	小	中	高	特	計
素手でたたく		1	1		2
棒などの道具を用いてたたく					0
蹴る			1		1
投げる・転倒させる					0
胸ぐらをつかむ	4				4
身体を強く押す	1				1
ものを投げつける					0
暴言・威嚇		2			2
正座をさせる					0
その他	1	1			2
計	6	4	2	0	12

表5 主な被害

	小	中	高	特	計
死亡					0
骨折					0
捻挫					0
鼓膜損傷					0
外傷	1				1
打撲		1	1		2
鼻血					0
髪を切られる					0
精神的苦痛		1	1		2
負傷なし	5	2			7
その他					0
計	6	4	2	0	12

表 6 把握のきっかけ（複数可）

	小	中	高	特	計
児童生徒の訴え		1	1		2
保護者の訴え	3	1			4
教員の申告		1	1		2
第三者の通報		1			1
その他					0

表 7 把握の手法＊（複数可）

	小	中	高	特	計
当事者教員	3	4	2		9
その他教員	2	2			4
被害児童生徒	3	4	2		9
その他児童生徒	1	3	1		5
保護者	3	3			6
その他（第三者）		1			1

＊ 事実関係の把握の手法のことであり、体罰事案把握のための事情聴取対象者を指す。

表 8 処分等（当事者）

	小	中	高	特	計
免職					0
停職					0
減給			1		1
戒告	1				1
（訓告等）	1	4	1		6
計	2	4	2	0	8

表 9 処分等（監督者）

	小	中	高	特	計
免職					0
停職					0
減給					0
戒告					0
（訓告等）	1	2	1		4
計	1	2	1	0	4

※ 懲戒処分（免職、停職、減給、戒告）は、任命権者（県教育委員会）が行う。
 訓告等は、服務監督権者（県立学校教員の場合は県教育委員会、市町村立学校教員の場合は当該市町村の教育委員会）が行う。

表 1 0 体罰等を起こした教員の年齢構成

年代	小	中	高	特	合計
20歳代	2				2
30歳代		2			2
40歳代					0
50歳代		1	1		2
60歳以上	1	1	1		3
計	3	4	2	0	9

表 1 1 体罰等発生件数の推移（過去 5 年）

年度	小	中	高	特	合計
令和 3 年度	1	3	12	2	18
令和 4 年度	4	8	4	0	16
令和 5 年度	1	0	9	3	13
令和 6 年度	4	4	10	1	19
令和 7 年度	6	4	2	0	12

※ 主な具体例

校種	年齢	場所	内容	本人の理由	行動の分析
高等学校	60代	グラウンド	■部活動指導していた際、相手方生徒がにやけているように見えたため、感情的になり、同生徒に対して、左手平手で頭部の右前方を1回はたき、左手拳で右上腕部を1回殴り、左足で右大腿部を1回蹴った。	■自分の自尊心が足りなかったと思う。 ■もっと後先のことを考えて行動できれば良かった。	■従来の指導方法からの意識変革が乏しい。 ■アンガーマネジメントができていない。
中学校	60代	教室	■生徒が、指導に対して反応せず、耳を傾けなかったことに感情的になり、左手で、生徒の右耳から右ほほあたりを1回たたいた。	■こうあるべきだという思い込みから、指導が相手に伝わらないことへの怒りでたたいてしまった。	■従来の指導方法からの意識変革が乏しい。 ■生徒理解の欠如 ■アンガーマネジメントができていない。
小学校	20代	教室	■給食の準備の際、担任する児童の発言に感情的になり「給食は食べられません。」と言って配膳用のトレイを取り上げた。その後、泣いている同児童を校舎外につながるドアから校庭に出し、ドアの鍵を閉めた。同児童が校舎外から教室に戻ってきた際には、同児童の肩付近を両手で押さえて制止し、同児童を教室へ入れないようにした。	■給食の準備の際、指導に従わない児童とやりとりの中で感情的になり、自分でなんとかしたいという思いから大きな声で指導をしたり、被害児童を校舎の外へ出したりしてしまった。	■児童理解の欠如 ■教師の力量不足 ■アンガーマネジメントができていない。

調査結果を踏まえた今後の対応策

1 調査から分かったこと

- ・アンガーマネジメントやコミュニケーションスキル、人権尊重に関する体系的な認識が不足しており、感情的な指導の抑制と多様な指導技術が身に付いていない。
- ・前年度と比較して体罰の発生件数は減ったが、依然として部活動における体罰が発生している。
- ・体罰の多くが授業中や休み時間、部活動の場面で発生している。また、保護者や児童生徒からの訴えをきっかけに発覚するケースが多い。

2 課題

- ・自らの指導行動の問題点や影響を客観的に認識できず、体罰が児童生徒に及ぼす身体的・心理的被害の深刻さを理解していないため、自分の感情をコントロールするスキル等を身に付けることが必要である。
- ・部活動指導においては、生徒の主体性を重視した指導法が、十分に普及していないため、指導の意識転換が必要である。
- ・体罰の被害が長期化・深刻化する前の速やかな問題把握や対応が必要である。体罰に関する相談はプライバシーが特に重視されるため、児童生徒が相談をためらうことがないような相談体制の更なる活用が必要である。

3 対応策

- ・認知行動療法の考え方を取り入れた研修資料「不祥事防止のための心理と行動のワークシート体罰編」を活用し、グループワークやセルフチェックを繰り返し実施させることで、体罰防止への意識を高めるとともに、不祥事根絶に向けた啓発を徹底していく。
- ・部活動における体罰の発生件数が前年度より減少したものの依然として体罰が確認されていることを踏まえ、体罰防止に向けて生徒主体の効果的な指導法などを紹介したリーフレットを継続的に活用しながら、今後も部活動指導における意識転換を進めていく。
- ・各学校において管理職を中心とした研修により、体罰発生が多い授業中や休み時間、部活動などの場面での教員間連携を意識させるとともに、児童生徒性暴力通報・相談窓口の更なる周知及び活用を推進し、体罰発生の早期発見・通報を促す。

様式 a

不祥事防止のための 心理と行動のワークシート

体 罰

[様式a]相手への制裁・報復を
目的とする行為編

このワークシートは、平成 30 年度以降、実際に起きた埼玉県の実例から「体罰のうち行為の目的を相手への制裁・報復とするもの」に該当する複数の事例を抽出し、共通する出来事や事故者の心理状態など*1 を分析、認知行動療法の考え方*2 を取り入れて作成したものです。不祥事を起こすに至るまでには、行動に先立つ思考過程のパターンがあります。ワークシートを使って自分をモニタリングしてみましょう。

*1 掲載に当たっては実際の事例を参考に、改変を加えている。

*2 問題のある行動につながる考え方の癖、いわゆる認知の歪みを認識して、適切な考え方・行動へ向かわせる手法

出来事		不祥事へ向かわせる 心の声	不祥事を思いとどまらせる 心の声
日常の段階から、不祥事の発生、発覚に至るまでの経過を自分事としてたどってみましょう。		出来事に対応する心理としてあなたの思いに近い方の□にチェックを入れ、更に思い浮かべることがあれば()の中に記入しましょう。	
日常	手のかかる生徒の一人。 保護者から相談を受けることも多い。	☐ 生徒と本気で向き合い、自分の方法で良い方向へ変えていきたい。 ()	☐ 校内で一貫した方針で対応していくことは大切。 ()
指導方針への不満	問題行動がある度に周りの教員が生徒に注意しているが一向に改善しない。	☐ 困っている教員は多い。このままのやり方では良くなならない。 ()	☐ どうやって改善していくべきか、改めて教員同士で考えよう。 ()
個別の指導	生徒の問題行動があった。 多目的室に呼び出し、自分一人で指導を始めた。	☐ 自分の言うことは素直に聞くことが多い。自分が引き受けよう。 ()	☐ 自分だけでは間違った判断をするかも。()
印象付け	威圧的に怒鳴る指導を行った。	☐ あえて厳しさを見せることが必要な機会だ。怖さが無いと変えられない。()	☐ 毅然とした態度と威圧的な態度。分けられているだろうか。 ()
相手の態度の確認	生徒は反省の言葉を口にしたが、その態度にはふてくされるような気持ちが溢れていた。	☐ 思いがまるで伝わらない。真に反省していないことに苛立つ。 ()	☐ 冷静に！相手がどんな反応でもまずは落ち着いて受け止めよう。 ()
音で威嚇	傍にあった机を蹴り、壁を叩いて大きな音を出して生徒を威嚇した。	☐ 反抗的な態度を取ったらどうなるか教える必要がある。 ()	☐ 怒りのピークは6秒。6秒待って一旦離れて対処法を考えよう。 ()
身体に接触	生徒の胸元を押し、壁際に追いやった。	☐ 時には徹底的に体当たりで向き合うことが大事。()	☐ 向き合う指導は対話でできるはず。()
強い攻撃	驚くような表情を見せた生徒に、「わかってんのか」と言い、頬に平手打ちを繰り返し行った。	☐ 迷惑をかけられて周りが味わった苦しみをわからせるための指導だ。()	☐ 「時には暴力も必要」と、誤った認識を持たせてしまうのでは。 ()
目的の達成	生徒は反省と今後の行動を改める言葉を口にした。	☐ やっと素直さが見られた。必要な指導であった。 ()	☐ 素直にさせたのではない。力関係でねじ伏せたに過ぎない。 ()
正当化の行為	生徒の保護者に電話をした。生徒の問題行動と、それに対する厳しい指導を行ったことを告げると、保護者から御礼の言葉を受けた。	☐ 日頃保護者に感謝されている。自分の思いをきちんと伝えてわかってもらえれば問題にならないだろう。()	☐ 生徒が味わった痛みと恐怖はどれほどか。取り返しの付かないことをしてしまったことを自覚しなくては。()
発覚	保護者が管理職に連絡して発覚。事情聴取を受けた。(警察・学校・教育委員会)懲戒処分を受けることとなった。	最初は相手を思っただけの行動だったが、結果的に相手の心に深い傷を与えることになった。 地道に作り上げてきた生徒や保護者との関係が壊れてしまった。	

セルフワーク 自分自身のモニタリングをしてみましょう。

「不祥事へ向かわせる心の声」が強いところや、「不祥事を思いとどませる心の声」が弱いところはどの段階でしたか。

(記入しましょう)

あなたが、不祥事に向かう段階を確実に防ぎ止められると思うのはどの段階ですか。それは何故ですか。

(記入しましょう)

あなたにも事故者の特性と共通するものがないか考えてみましょう。

◆参考◆ 事例分析から見えた事故者の特性の共通点(ここに掲げた特性に当てはまる者全てが問題のある行為を行うわけではありません。多くの教職員に当てはまるものもあります。)
 生徒をより良く変えたいと思っている／生徒の性格や課題をよく把握している／周りからは厳しくて言うことは言う先生だと思われる／
 頼りになる存在になりたいと思っている／取り繕うことや素直ではない態度を許せないと感じる

(記入しましょう)

あなたが今、大切にしたいと思っていることは何ですか。(あなたが「大切にしたいこと(人・物など)」は、不祥事を思いとどませるためのブレーキです。もし、あなたが不祥事を起こしてしまったら、「大切にしたいこと」を守ることができなくなってしまうかもしれません。)

(記入しましょう)

防止策 不祥事を食い止めるためにできることを考えましょう。

あなたの「不祥事へ向かわせる心の声」を「不祥事を思いとどませる心の声」に切り替える方策は何ですか。

(記入しましょう) 考え方 :

(記入しましょう) 具体的な行動:

あなたが同僚だった場合にできることは何ですか。

(記入しましょう)

あなたの職場には、児童生徒に対して威圧的な態度で接することが良しとされている雰囲気がありますか。

なし・あり(ある場合には具体的な内容を記入しましょう)

このような事故を起こした場合に問われる①～④の責任について、それぞれ具体的に考えましょう。

(記入しましょう) ①行政上の責任: ②刑事上の責任: ③民事上の責任: ④社会的な責任:

同じような事故を、あなたの職場で絶対に起こさない・起こさせないようにするために、みんなで取り組めることを考えましょう。

(記入しましょう)

様式b

不祥事防止のための 心理と行動のワークシート

体 罰

[様式b]相手を望ましい方向へ
変化させることを目的
とする行為編

このワークシートは、平成 30 年度以降、実際に起きた埼玉県的事例から「体罰のうち行為の目的が相手を望ましい方向へ変化させるもの」に該当する複数の事例を抽出し、共通する出来事や事故者の心理状態など*1を分析、認知行動療法の考え方*2を取り入れて作成したものです。不祥事を起こすに至るまでには、行動に先立つ思考過程のパターンがあります。ワークシートを使って自分をモニタリングしてみましょう。

*1 掲載に当たっては実際の事例を参考に、改変を加えている。

*2 問題のある行動につながる考え方の癖、いわゆる認知の歪みを認識して、適切な考え方・行動へ向かわせる手法

出来事		不祥事へ向かわせる 心の声	不祥事を思いとどまらせる 心の声
日常の段階から、不祥事の発生、発覚に至るまでの経過を自分事としてたどってみましょう。		出来事に対応する心理としてあなたの思いに近い方の□にチェックを入れ、更に思い浮かべることがあれば()の中に記入しましょう。	
日常	普段から授業中に私語が多いクラス。授業も遅れがちで、保護者からの苦情もある。	☐ このくらいのことは自分の力で解決しなければ。 ()	☐ 自分には何が足りないだろう。一度誰かに相談してみよう。 ()
同僚からの批判	隣のクラスの担任から、もっと静かにさせてほしいとクレーム。	☐ 誰かに相談したら、かえって色々言われてしまうかもしれない。 ()	☐ いい機会だから、少し恥ずかしいけれどアドバイスをもらおう。 ()
個別の指導	私語の中心になっている3人の児童に、おしゃべりをやめるように注意するが、すぐにまた私語が始まる。	☐ あの3人さえ静かにしてくればクラスも正常化するのに。 ()	☐ もしかしたら3人も何か困りごとを抱えているのかもしれない。 ()
印象付け	少し声を荒げて指導を行った。	☐ 優しく言ってもだめなら、あえて厳しさを示せることも必要だ。 ()	☐ 毅然とした指導だっただろうか。威圧的な指導ではなかったか。 ()
相手の態度の確認	一瞬クラスが静かになったが、授業を進めるとまた騒がしくなり始める。	☐ 思いがまるで伝わらない。言うとおりにならないことに苛立つ。 ()	☐ 冷静に！まずは落ち着いて次のことを考えよう。 ()
身体侵害	3人の児童の席に行き、「静かにできないなら廊下に出すぞ。」と言って、頬を両手でぎゅっと挟んだ。	☐ 何度言ってもだめなら、これくらいしないと分からないだろう。 ()	☐ 怒りのピークは6秒。6秒待とう。手を出したら子供との関係が悪化するだけ。()
身体侵害・行為の強制	その後、また私語が始まった。今度は3人の児童の腕を強くつかみ、「静かにできるまで立ってなさい。」と言って、廊下に出した。	☐ 我慢の限界。自分も昔は廊下で立たされた。やるしかない。 ()	☐ もう一人で抱え込むのは限界だ。管理職や同僚に助けを求めよう。 ()
行為の強制	廊下でも3人がじゃれ合っている様子だった。トイレに行くことも認めず、1時間、廊下で正座をさせた。	☐ ほかにできることが思いつかない。分からせるためには仕方ない。 ()	☐ 指導を強めてもだめだ。これ以上は危険だ。アプローチを変えよう。 ()
目的の達成	3人の児童は反省と今後の行動を改める言葉を口にした。	☐ やっと分かってもらえた。必要な指導であった。 ()	☐ 真の意味の反省ではなく、力関係でねじ伏せただけかもしれない。 ()
行為の正当化	他の教職員から、正座は問題があるのではと指摘された。少しやり過ぎたかもしれないが、児童も理解してくれていますと答えた。	☐ ト라우マになるほどでもないし、児童をフォローすれば大事にはならないだろう。()	☐ もしかしたらやり過ぎだったかもしれない。後で管理職に相談しよう。()
発覚	他の教職員が管理職に報告して発覚。事情聴取を受けた。(学校・教育委員会)懲戒処分を受けることとなった。	なんとかして静かにさせなければと追い込まれ、短絡的に行動してしまった。結果的に身体的な痛みだけでなく、心にも傷を負わせてしまった。児童や保護者との関係を更に悪化させてしまった。	

セルフトーク 自分自身のモニタリングをしてみましょう。

「不祥事へ向かわせる心の声」が強いところや、「不祥事を思いとどませる心の声」が弱いところは何の段階でしたか。

(記入しましょう)

あなたが、不祥事に向かう段階を確実に防ぎ止められると思うのはどの段階ですか。それは何故ですか。

(記入しましょう)

あなたにも事故者の特性と共通するものがないか考えてみましょう。

◆参考◆ 事例分析から見えた事故者の特性の共通点(ここに掲げた特性に当てはまる者全てが問題のある行為を行うわけではありません。多くの教職員に当てはまるものもあります。)
担任なら他者の助けを借りずに自分一人の力で児童生徒をより良い方向に導かなければならないと思っている／児童生徒への指導の専門性に自信がない／
思いどおりにいかないと冷静さを失うことがある／決まりやルールは必ず守らせなければならないと感じる

(記入しましょう)

あなたが今、大切にしたい、失いたくないと思っていることは何ですか。(あなたが「大切にしたいこと(人・物など)」は、不祥事を思いとどませるためのブレーキになります。もし、あなたが不祥事を起こしてしまったら、「大切にしたいこと」を守ることができなくなってしまうかもしれません。)

(記入しましょう)

防止策 不祥事を食い止めるためにできることを考えましょう。

あなたの「不祥事へ向かわせる心の声」を「不祥事を思いとどませる心の声」に切り替える方策は何ですか。

(記入しましょう) 考え方 :

(記入しましょう) 具体的な行動:

あなたが同僚だった場合にできることは何ですか。

(記入しましょう)

あなたの職場には、教職員同士の関心が薄かったり、不適切な指導や場面を見ても、流してしまうような雰囲気はありませんか。

なし・あり(ある場合には具体的にどんな場面でそう感じるのか記入しましょう)

このような事故を起こした場合に問われる①～④の責任について、それぞれ具体的に考えましょう。

(記入しましょう)①行政上の責任: ②刑事上の責任: ③民事上の責任: ④社会的な責任:

同じような事故を、あなたの職場で絶対に起こさない・起こさせないようにするために、管理職を含めたみんなで取り組めることを考えましょう。

(記入しましょう)

様式d

不祥事防止のための 心理と行動のワークシート

体 罰

[様式 d]印象操作を目的とする
行為編

このワークシートは、平成 30 年度以降、実際に起きた埼玉県の実例から「体罰のうち印象操作を目的とするもの」に該当する複数の事例を抽出して共通する出来事や事故者の心理状態など*1 を分析し、認知行動療法の考え方*2 を取り入れて作成したものです。不祥事を起こすに至るまでには、行動に先立つ思考過程のパターンがあります。ワークシートを使って自分をモニタリングしてみましょう。

*1 掲載に当たっては実際の事例を参考に、改変を加えている。

*2 問題のある行動につながる考え方の癖、いわゆる認知の歪みを認識して、適切な考え方・行動へ向かわせる手法

出来事			不祥事へ向かわせる 心の声	不祥事を思いとどまらせる 心の声
日常の出来事や発覚時の状況を 自分事としてたどってみましょう。			出来事に対応する心理としてあなたの思いに近い方の□にチェックを入れ、更に思い浮かべることがあれば()の中に記入しましょう。	
日常	厳しい指導スタイル	毎年度、自分の熱血指導を望んで入部してくる生徒が多くいる一方で、反感を抱く生徒や、ついていけずに退部する生徒も一定数いる。	☐ 部活を強くすることは、自分の生きがいだ。OBや保護者からも期待されている。部員は、自分のやり方に従えば間違いない。 ()	☐ 大人が過度に生徒を追い詰めて、心身の健康を損ねさせてしまうケースはないだろうか。生徒の自主性を育てていけば、時間はかかるが、きっと結果に表れるだろう。 ()
	暴言	何度も道具を忘れてくる部員に対し、「てめえバカか。使えない。死んだ方がいい。」と罵声を浴びせた。	☐ 忘れ物をしないことは当たり前。何度言っても分からないのだから強い言葉で叱られて当然である。 ()	☐ 人権を侵害する言葉は許されない。カッときたら、発言の前に6秒間、クールダウンの時間を置こう。 ()
	暴言	退部を申し出る部員に「ここで辞めちまうのか。この後の人生も絶対に上手いじゃない。お前は一生負け組だ。」と言った。	☐ 諦めてほしくない。道を逸れずに生きるには部活を頑張ることしかない、と伝えるための声掛けだ。生徒のためを思って言っている。 ()	☐ 最終的には生徒自身が決めること。奮起を促すためとはいえ、生徒の人格や将来を否定するような言葉を使うのはもってのほかだ。 ()
	物投げつけ	練習中、部員たちの向上心が足りないように感じられたため、椅子を床に投げつけた。部員全体の動きが止まり、皆、自分の話に聞き入った。	☐ 自分なりの愛情がある行為だ。発破をかけるのに必要な行為だ。自分の話をしっかり聞くようになり効果的だ。 ()	☐ 本当に自分の意図が正しく伝わるだろうか。威嚇で支配するのではなく、言葉で伝えて皆に考えさせよう。 ()
	身体侵害	生徒指導上の問題で生徒を指導したと同僚から聞いた。部員であったため、個別に呼び出して平手打ちした。生徒は「自分が悪いので叩かれて当然です」と言った。保護者には感謝された。	☐ 礼儀作法から、精神の鍛錬にわたるまで面倒を見ている。顧問に恥をかかせるな。生徒、保護者とも納得している。やむを得ない時もあるだろう。 ()	☐ わからせるためには手をあげることも必要、という誤った認識を植え付けてしまう。どんな場合でも、体罰は許されない、恥ずべき行為だ。 ()
	身体侵害	練習試合で、ミスした部員にボールを投げつけた。全員に整列させ、「何度も同じミスをするな」と恫喝して、肩を叩いたり頭を叩いたりした。	☐ 苦しみに耐えることで精神力を鍛えさせて強いチームを作りたい。自分も過去にこういう指導に耐えたからこそ成長できた。 ()	☐ 時代の変化を受け止め、力で委縮させずに意欲を高める指導をしていこう。ミスが起きる原因を分析して、練習の改善につなげよう。 ()
発覚			顧問を降ろされ、大事にしてきた部活動に携わることができなくなった。部員は、体罰を問題視する者、擁護する者、部活を離れる者などで気持ちがバラバラとなり、人間関係も崩れてしまった。長いこと信じてきた指導は間違っており、自分は部活を壊してしまったのだ、と気が付いた。	

セルフトーク 自分自身のモニタリングをしてみましょう。

「不祥事へ向かわせる心の声」が強いところや、「不祥事を思いとどませる心の声」が弱いところがありましたか。それはどこでしたか。
(記入しましょう)
あなたが、確実に踏み留まれると考える行為はどれですか。何故そのように思いますか。
(記入しましょう)
あなたにも事故者の特性と共通するものがないか考えてみましょう。 ◆参考◆ 事例分析から見た事故者の特性の共通点 (ここに掲げた特性に当てはまる者全てが問題のある行為を行うわけではありません。多くの教職員に当てはまるものもあります。) 部活の部員に対しては生活態度や学習面においても、他の生徒よりも特に目をかけている／部員の「勝ちたい気持ち」「向上心」を重視している／チームには厳しさが必要だと考えている ／自分の指導のやり方を周りにわかってもらいたいと考えている／日常から言葉遣いが荒い／「てめえ」「おめえ」と言う言葉で生徒を呼んでいる
(記入しましょう)
あなたが今、大切にしたいと思っていることは何ですか。(あなたが「大切にしたいこと(人・物など)」は、不祥事を思いとどませるためのブレーキです。もし、あなたが不祥事を起こしてしまったら、「大切にしたいこと」を守ることができなくなってしまうかもしれません。)
(記入しましょう)

防止策 不祥事を食い止めるためにできることを考えましょう。

あなたの「不祥事へ向かわせる心の声」を「不祥事を思いとどませる心の声」に切り替える方策は何ですか。
(記入しましょう) 考え方 :
(記入しましょう) 具体的な行動:
あなたが同僚だった場合にできることは何ですか。
(記入しましょう)
あなたの職場には、児童生徒に対して威圧的な態度で接することが良しとされている雰囲気がありますか。
なし・あり(ある場合には具体的な内容を記入しましょう)
このような事故を起こした場合に問われる①～④の責任について、それぞれ具体的に考えましょう。
(記入しましょう)①行政上の責任: ②刑事上の責任: ③民事上の責任: ④社会的な責任:
同じような事故を、あなたの職場で絶対に起こさない・起こさせないようにするために、みんなで取り組めることを考えましょう。
(記入しましょう)